

富士山

公益財団法人日本交通公社の取り組み



Photo by Norihito Shiga

富士朝景(冬)

日本一の高さを誇り、日本を代表する山である富士山。

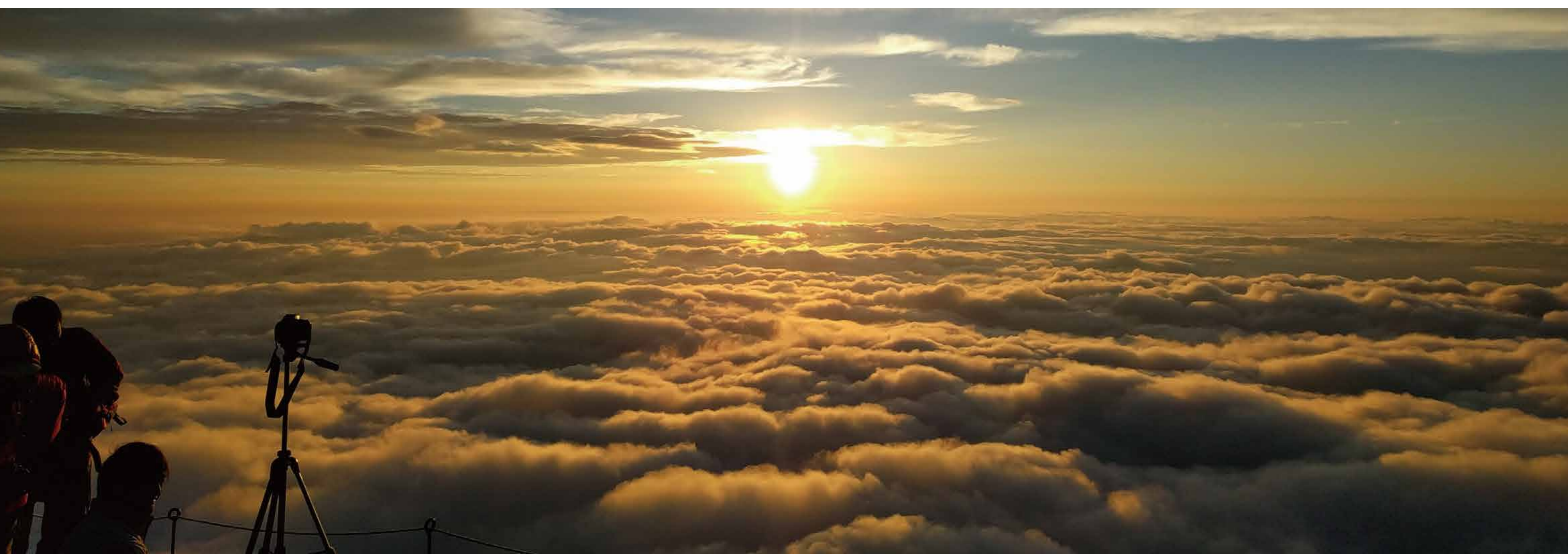
その姿は、古来より日本人の自然に対する信仰のあり方や日本独自の芸術文化における源泉となっており、

その価値を踏まえて2013年、世界遺産リストに記載されました。

その富士山では現在、文化遺産としての価値の認知向上や登山道の混雑に対する安全性の確保が課題となっています。

今回の展示ではそれらの課題に対する私たち日本交通公社の取り組みを紹介します。

富士山頂からの御来光(夏)



富士山世界文化遺産登録推進
両県合同会議の発足

山梨・静岡両県知事が文化庁長官へ
暫定リスト提案書を提出

日本の世界遺産暫定一覧表に
富士山が記載される(文化庁)

山梨・静岡両県が
推薦書原案を文化庁に提出

日本国政府が
ユネスコ世界遺産センターに
推薦書を提出

世界遺産登録決定

世界文化遺産富士山ビジョンおよび
各種戦略を策定・採択

上記ビジョン・各種戦略を反映した
包括的保存管理計画改定案を了承

保全状況報告書に基づく
施策の実施

保全状況報告書に基づく
施策の実施

ユネスコ世界遺産センターに
最新の保全状況報告書を提出

2005

2006

2007

2011

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

世界遺産登録の経緯と 日本交通公社の取り組み

世界遺産登録まで

富士山は、日本文化の基層を成す名山として世界的に著名で、秀麗な成層火山であるのみならず、信仰の対象と芸術の源泉としても顕著な普遍的価値を持つことから、ICOMOS(国際記念物遺跡会議)の登録勧告を受ける形で、2013年、世界遺産に登録されました。

ICOMOSからの勧告

ただし、ICOMOSの勧告には富士山の保全に関する勧告・要請事項が含まれており、山梨・静岡県をはじめとする各関係者には、(安全で快適な)望ましい富士登山を実現するための来訪者管理戦略や、各構成資産の一体的な認知・理解向上のための戦略を含む「保全状況報告書」の提出が求められました。

日本交通公社の関わり

日本交通公社では、富士山の世界遺産登録以降、山梨・静岡両県および環境省などと連携して各種調査・研究を実施し、ユネスコ世界遺産センターに提出するための「保全状況報告書」の作成に協力をしてきました。

日本交通公社の取り組み

富士山に係る業務実施1年目

- 富士登山者(山梨側)を対象としたアンケート調査を実施。
- 富士山における登山収容力に関する考え方の取りまとめも行う。

富士山来訪者管理戦略策定支援業務(山梨県)

- アンケートを富士山全体に拡大。定点撮影・GPS調査の開始。
- この年、登山者の外国人比率と国籍に関する調査も実施。
- また、REBIRTH!富士講プロジェクトの取組支援を開始する。

富士山における来訪者管理検討支援業務(山梨県)、富士山の来訪者管理戦略における収容力調査研究業務(静岡県)
平成27年度富士山における外国人登山者動向把握調査業務(環境省)、平成27年度リバース!富士講プロジェクト支援業務(山梨県)

- アンケート拡大版、定点撮影、GPS調査のセット実施2年目。
- 登山者の外国人比率と国籍に関する調査の継続(山梨県側)。
- REBIRTH!富士講では、ガイド研修・マップ制作等に取り組む。

富士山登山道収容力及び外国人登山者動向調査研究業務(山梨県)
平成28年度富士山の来訪者管理戦略における収容力調査研究業務(静岡県)、平成28年度リバース!富士講プロジェクト支援業務(山梨県)

- アンケート・撮影・GPSセット調査3年目。混雑カレンダー制作につなげる。
- 加えて、富士山へ研究員自らが登頂し、現地視認調査を実施。
- REBIRTH!富士講では、ツアー催行およびマスコットキャラクターの制作。

富士山登山道収容力調査研究業務(山梨県)、平成29年度富士山の来訪者管理戦略における収容力調査研究業務(静岡県)
平成29年度富士山登山者数標準化支援業務(富士山世界文化遺産協議会)
平成29年度富士箱根伊豆国立公園富士山の適正利用推進及び世界文化遺産の管理方針の検討調査業務(環境省)
平成29年度リバース!富士講プロジェクト支援業務(山梨県)

- モバイル機器を活用したアンケート方式に移行。
- これまでの来訪者管理戦略の検証・見直し業務の実施。

平成30年度来訪者管理モニタリング業務(富士山世界文化遺産協議会)
平成30年度富士箱根伊豆国立公園満喫プロジェクト推進業務(環境省)

安全で快適な富士登山を楽しむために

来訪者管理戦略の策定

富士山は大混雑!

富士山は、開山期間が約2カ月と短く、その期間に30万近くの登山者が訪れます。特に登山者が集中する日には、山小屋は人であふれ、御来光前の山頂直下の登山道では渋滞で思うように進めないこともあります。

渋滞に巻き込まれると、自分の登るペースが乱れたり、疲れた時に休憩ができなくなったりする上、落石事故に巻き込まれる危険も多くなります。

来訪者管理戦略とは

世界遺産委員会から、多数の登山者によって、富士山の本来の価値が損なわれているのではないかという指摘がありました。

混雑を緩和するためにはどのような対策が必要であるか、「望ましい富士登山の在り方」を実現するためにはどれくらいの登山者数がふさわしいのか、きちんと調査・研究を行い、その成果に基づき来訪者管理戦略を策定することが求められました。



山頂で御来光を見ることを目指す登山者の行列。渋滞が発生して立ち止まったり進んだりを繰り返している。時には登山道を外れて追い越し、落石を起こす危険も生じる。(2017年8月13日撮影)

これまでの主な取り組み

日本交通公社では、来訪者管理戦略の策定に向けて、2015年から2017年の3年間、様々な登山者調査を行いました。

調査の結果は、来訪者管理戦略の策定だけでなく、関係者の合意形成用の資料として活用されたり、混雑を緩和するための施策に応用されています。

登山者動態調査



登山者に、5秒おきに位置情報を捕捉するGPSロガーを持たせ、登山者の動向を調査。

登山者意識調査



登山道や山頂の混雑状況や、世界文化遺産としての富士山に対する認識等についてアンケート調査を実施。

登山者定点撮影調査



混雑が指摘されている箇所(ボトルネック)に赤外線カメラを設置。時間別の混雑状況を把握。

現地視認調査



GPSロガーによる動態調査の結果と現場の状況を照合し、調査の確かさを確認。

混雑予想カレンダーによる混雑緩和

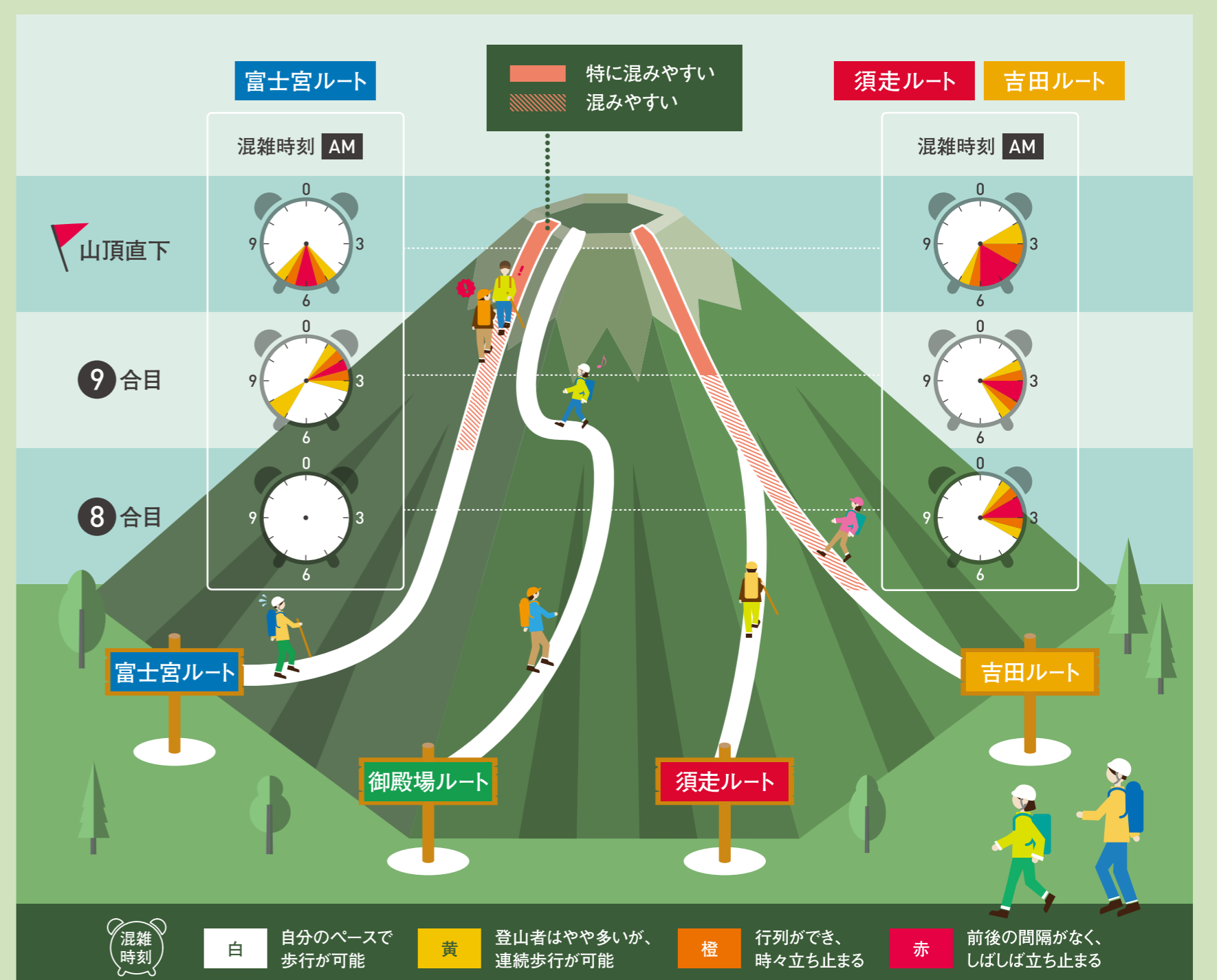
各種調査の結果から、その日の登山者数に応じた混雑状況のシミュレーションを行い、登山者数に応じた混雑具合、混雑する時間帯・場所等を予想することができるようになりました。

日本交通公社では、混雑緩和に向けた施策の一つとして、「混雑予想カレンダー」を作成しました。(株)山と溪谷社と協力し、混雑する時間帯・場所を、視覚的に分かりやすく説明しています。

これらは、山岳雑誌や富士登山オフィシャルサイト等各所に掲載され、登山者が自発的に混雑日、混雑時間を回避することを促しています。

7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4							1
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	9	10					
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25							
29	30	31					26	27	28	29	30	31								

■ 特に混雑 ■ 混雑 ■ やや混雑 ■ 平常



富士山の奥深さに触れてもらうために

REBIRTH! 富士講プロジェクト

富士信仰と富士講

日本一の山 富士山は、信仰の対象として今も昔も人びとの崇敬を集めています。噴火活動が盛んだった古代(奈良～平安時代頃)は、遠くから祈りを捧げる「遥拝」が中心でしたが、噴火活動が落ち着くとともに、人びとは信仰の対象である富士山に登るようになります(「登拝」)。

富士山山頂の八つの峰と中央の火口には、それぞれ九尊の仏様がいらっしゃると思われ、人びとはこの仏様の世界に入るために富士山の頂を目指しました。

江戸時代になると、富士山を信仰し登山を望む人びとは、「講」というグループを組んで富士山を目指すようになります。これを「富士講」といいます。富士山そのものや各浅間神社はもちろんのこと、富士五湖、忍野八海、胎内樹型、御師住宅といった世界文化遺産富士山の構成資産は、富士講が巡った修行の場です。

REBIRTH! 富士講プロジェクトとは

富士山は世界文化遺産であり、25の構成資産から成っていますが、その圧倒的な美しさが先行してか、世界遺産への登録理由や個々の構成資産についてはあまり知られていません。そこで「REBIRTH! 富士講プロジェクト」が立ち上がりました。世界文化遺産「富士山」の理解を促進するとともに、構成資産をつなぐ富士信仰の道を活用した新たな富士山観光を推進する取り組みで、山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会*が進めています。

このプロジェクトは、富士信仰の研究者(学芸員)、市町村の観光担当、観光協会、ガイド団体、商工団体、旅行会社、交通事業者など、様々な立場の関係者が一緒に進めています。特に、研究者と観光関係者が連携して進めてきた点が特徴です。

「REBIRTH! 富士講プロジェクト」では、学芸員によって積み重ねられてきた学術研究の成果を、一般の方にも楽しみながら知ってもらうことを目指しています。*事務局:山梨県世界遺産富士山課

これまでの主な取り組み

「REBIRTH! 富士講プロジェクト」ではこれまでに様々なことに取り組み、日本交通公社ではその支援を行ってきました。その一部をご紹介します。

ガイド研修会開催

富士山地域で活動するガイドを対象に、「信仰の山 富士山」の最新の研究成果を学ぶ研修会を開催。座学だけでなく、実際に現地を歩いて学ぶ実地研修も開催し、「ガイドをする上でとても役立った」と、ガイドのみなさんから好評を博した。

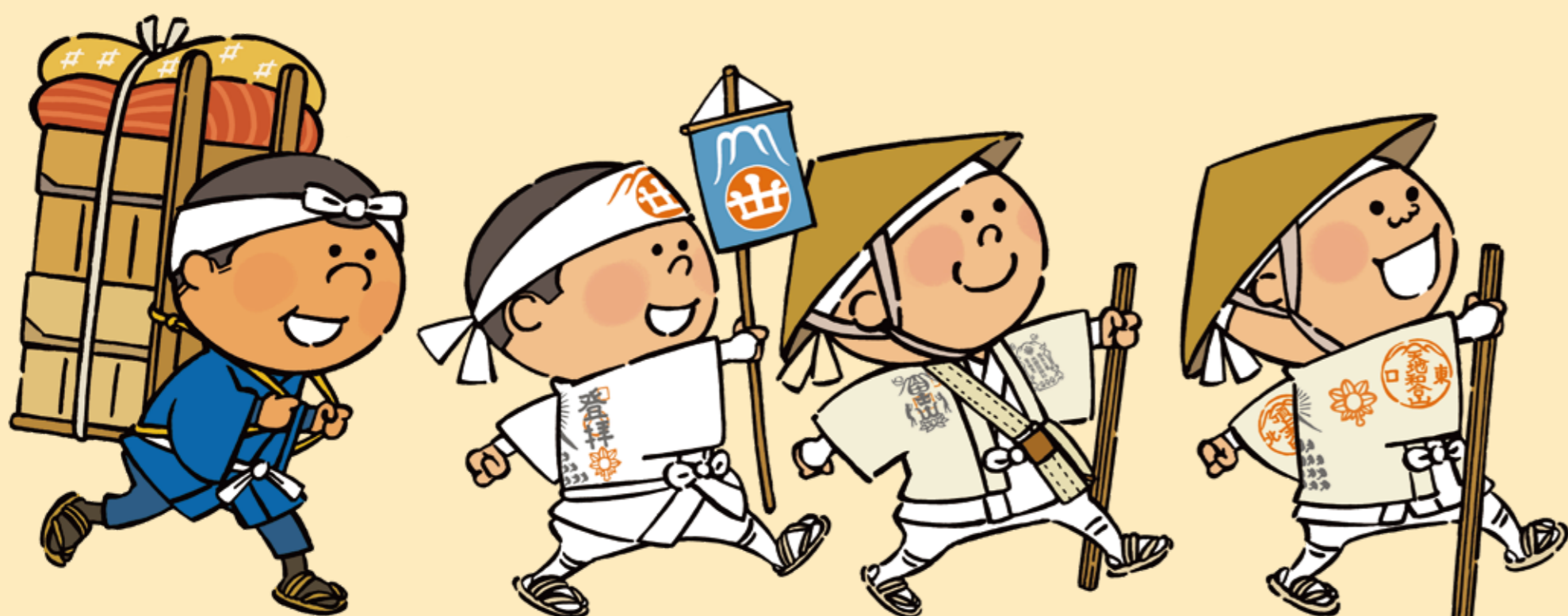
ツアー開催

数回にわたる、モニターツアー、ファムトリップの後、旅行会社の協力を得て、一般のお客様を対象としたツアーを開催。参加者の方からは「これまで知らなかった富士山の奥深さに触れることができた」という感想をいただいた。



マスコットキャラクター作成

富士講員をモチーフにしたマスコットキャラクターを作成。非常に可愛らしく親しみのあるデザインになっているが、富士講について正しく知ってもらうため、細部まで資料に基づいてデザインしている。作画はイラストレーターの吉田葉子氏。今後、様々な場面で活躍予定。



富士山でお会いしましょう～!

研究成果を楽しく伝えるために取り組んでいます!

